

参考資料：岡山縣上道郡古都村史、『岡山市の地名』著者岡山地名研究者
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）

みなみがた
南方村（現、**古都南方**）

村名は、古都郷の南に位置していることから北方村に対して南方村と呼ばれたものらしい。

枝村には、室山（むろやま）、寺坂、焼剥（やきはげ 役刷下やくはげ）の三か村があった。

庄内川の上流で水害も少なく、また松山や草山もあり、池が 10 か所もあるなど農産に適した村である。

著『史上の吉備』では、南方の方は瀧の略字であるとのことである。瀧は遠浅の海岸で潮のさしひきによって隠れたり現れたりする処、国訓で、うら、湾、はまなどの義である。

しかし南方、北方の地名は各所にもあるので全部南方の方は瀧なりとしては解釈できぬところもあるらしく、古都の南方、浮田の北方は瀧と解釈しても不当ではない様である。その理由は、南方一体は往古児島湾の海水を湛えていた時代もあったからである。

しかしながら古都の南方は古都庄内で鎌倉時代に庄園と地頭の間争から、下地中文、即ち土地の折半が行われ、南方、北方の地名が生じたと考えるのが無理がないようである。



明治 22 年(1889)6 月	宿、鉄、藤井、宍甘の 4 ヶ所と合併して古都村となった
昭和 28 年(1953)2 月	町村合併で西大寺市に編入
昭和 44 年 2 月	西大寺市の岡山市編入合併にともない西大寺南方となった
昭和 47 年 7 月	古都南方と改称

果樹、特にぶどうの栽培が盛んで、築の背後丘陵の路地ぶどう畑となっている。

西大寺地区から集まったゴミの埋め立て地を設けてゴミの最終処理場を、昭和 57 年からは地域のスポーツ広場として整備された。